



学校だより

みどりの

学ぶ当事者 支える当事者 緑野小学校

○考え伝え合う子

○心豊かな子

○元気な子

○やりぬく子

令和6年3月1日

あとになって気づく「ありがとう」

校長 遠藤 昌司

2月の後半は季節を先取りするような暖かい日があったかと思えば厳しい寒さに逆戻りと寒暖差がとても激しかったですが、ここへ来てようやく暖かな陽ざしが感じられるようになってきました。体育館と校舎の間にある梅の木もきれいに花を咲かせており、2階の連絡通路からはほのかにいい香りが漂ってきます。メジロがやってくることもあり、その黄緑色とピンク色の鮮やかなコントラストからは春の訪れの近さを感じます。2月の授業参観・懇談会では、この一年間の成長の様子をご覧いただきましたが、子供たちは卒業・進級に向け、学年の仕上げをしているところです。

先日、大和市の古谷田市長が来校されました。「市長による朝の挨拶訪問」で市内の小学校を回られていて、2月21日が緑野小学校の番でした。あいにくの雨で寒い日にもかかわらず、「おはよう」、「シルフィードカレーおいしかった?」、「勉強頑張ってるね」と、子供たちへ気さくにお声がけくださいました。市長さんと気づいた子は驚いたり、丁寧に挨拶をしたり、中には握手をしていただく子もいました。普段、なかなかお目にかかることのない方との貴重な時間となりました。

以前、一年生の授業を参観した時のこと。定番の「算数セット」で学習する場面を見て、自分が使っていた頃の遠い記憶が甦ってきました。数え棒やおはじきに模擬時計など、「算数セット」には当時も学習用具とは思えないワクワク感がありました。思い出したのはそのことではなく、一つ一つに貼られていた名前シールのことです。今よりも品目が多かったものに、特におはじきなどには小さな小さなシールに手書き文字が書かれていました。保護者の皆さんも入学時にはご苦労されたことと思いますが、せっせと書いては貼ってくれた親の当時の姿が思い浮かびました。小学生の頃はもちろん、これまでこの手間に対して感謝の思いが浮かぶことはなかったのですが、授業を参観したことがきっかけとなり半世紀近くたって、やっと気づくことができました。何かの折に、ありがとうの気持ちを伝えようと思います。

「育ち学ぶ当事者」である緑野小の子供たちは、「支える当事者」である保護者の皆さん、地域の方々、そして学校からも、当然のことのように日々、たくさんの恩を受けています。その場で気づき感謝を伝えられることもあれば、しばらくたってから分かることもあるかもしれません。

受けた恩に対して感謝できることも、本校の学校教育目標で謳われている「品格」につながるのではないかと思います。学校で、そして地域や家庭の中で、気づいた時には「ありがとう」を伝える場面がたくさんあることを願っています。